

海外から見た日本の水産資源管理の評価と今後のあり方

海の恵みと食料安全保障を考える産学国際シンポジウム



基調講演

米ワシントン大学教授 レイ・ヒルボーン 氏
「水産資源管理を成功に導くには」
 ～共同管理の分析を通じて～

プログラム

13:30 開 会
 13:40 基調講演
 14:40 質疑応答
 15:10 パネルディスカッション

パネリスト

- レイ・ヒルボーン 氏
- マイケル・デアレッシ 氏 (米ワシントン大学)
- 濱田 武士 氏 (東京海洋大学准教授)
- 松田 裕之 氏 (横浜国立大学大学院教授)
- 佐藤 力生 氏 (漁師・元水産庁職員)

ファシリテーター

- 八木 信行 氏 (東京大学准教授)

日 時

2014年3月7日(金) 13:30～17:00
 (開場13:00)

場 所

東京海洋大学 品川キャンパス 白鷹館講義室

その他

参加費無料・同時通訳付。一般公開・定員300名(予めお申込下さい)

主催：JF 全漁連・日本水産学会・東京大学 大学院農学生命科学研究科

お問い合わせ先

JF全漁連 田中・涌井・金田

Tell:03-3294-9614 Fax:03-3294-9658

東京大学 簗原 (みのほら)

Tell&Fax:03-5841-5018

海の恵みと食料安全保障を 考える産学国際シンポジウム

～海外から見た日本の水産資源管理の評価と今後のあり方～

近年、水産資源などの共有資源の管理にあたって、自主的な共同管理が国際的にも脚光を浴びています。2009年にノーベル経済学賞を受賞した米国インディアナ大学のエリノア・オストロム教授(故人)は、共有資源に利害関係を持つ当事者が自主的にルールを決めて管理を行うことの長所をその生涯にわたり説いてきました。これらは日本の沿岸漁業が経験的に会得してきた内容そのものといえます。

米国ワシントン大学のレイ・ヒルボーン教授らは、世界44カ国の130種類の共同管理(co-management)漁業について分析した結果を、2011年1月、科学雑誌ネイチャーに発表し、この論文において、漁業の成功には自然環境と人間社会が複雑に関係しており、「リーダーシップ」や共同利用・管理が世界の漁業問題の有効な解決策になるとしています。この観点も、日本の沿岸漁業が経験的に会得した内容と通じる部分があります。

このシンポジウムでは、以上を踏まえ、漁業が今後とも持続的に国民に水産食料を提供し、漁業・漁村の有する機能を発揮するための方策について、国際的な論者を交えて議論を行うものです。現在の日本の漁業や資源管理のあり方を考え、また再評価することを通じ、将来の食料安全保障について広く議論することを目的として開催します。



プログラム

- 13:30～13:40 開 会
13:40～14:40 基調講演
講演者：レイ・ヒルボーン氏
(米ワシントン大学教授)
テーマ：「水産資源管理を成功に導くには」
～共同管理の分析を通じて～
14:40～15:00 質疑応答
15:00～15:10 休 憩
15:10～17:00 パネルディスカッション

会場までのアクセス

- JR線・京浜急行線 品川駅港南口(東口)から徒歩約10分
- 東京モノレール・りんかい線天王洲アイル駅から「ふれあい橋」を渡り正門まで約15分



お申込方法

*メールによるお申込み

氏名・所属・ご連絡先(電話・メール・FAX等)を記載し、以下のメールアドレスまで送信願います。

MAIL:n-kaneta@zengyoren.jf-net.ne.jp
(担当:JF全漁連 田中・涌井・金田)

*FAXによるお申込み

申し込み用紙の各事項をご記入の上、以下のFAX番号まで送信願います。
FAX:03-3294-9658(担当:JF全漁連 田中・涌井・金田)

FAX:03-3294-9658(担当:JF全漁連 田中・涌井・金田)

「海の恵みと食料安全保障を考える産学国際シンポジウム」

申し込み用紙

氏名

所属

電話

FAX

メール

※本紙をそのままFAXしてください。